195　2025年 3月

カリエロ

CAGLIERO11

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

150 感謝 再考 再発進

再発進を

友人の皆さん、

ドン・ボスコの生涯において、サレジオ家族の最初の諸グループが創立された過程と、それらのグループで「すべての民ad gentes」への宣教の熱意が発展したこととの間に、意味深い相互関係があります。

1844年、ドン・ボスコは宣教会である聖母献身宣教会（オブレート会）に入会する望みを表しています。ドン・ボスコは1848年以降、パタゴニアとティエッラ・デル・フエゴに宣教師を送ることについてしばしば口にしていました。ダニエル・コンボーニが1864年、オラトリオを訪問しています。第一バチカン公会議の期間中（1870年）、ドン・ボスコは、宣教地から来ていた多くの司教と会いました。1871年、ドン・ボスコは最初の宣教の夢を見ます。1875年（サレジアニ・コオペラトーリが承認された年）、最初の宣教団が派遣され、その2年後、サレジアン・シスターズも宣教団を派遣しました。ドン・ボスコの夢は亡くなるときまで続きました。

ドン・ボスコにとって、宣教の理念を培うこと、教会の宣教事業への参加は、サレジオ家族の最初の諸グループの創立と手に手を取って進められることでした。したがって、私たちは、若者と貧しい人々のための共有する宣教召命を強化するべきなのです。神の国がすべての人々にもたらされるために！

サレジオ家族顧問
フアン・プラヤ神父, SDB

家庭でも、危機はチャンス

私たちの文化では、家庭の危機はネガティブな出来事として捉えられ、失敗、崩壊、終焉と結びつけられています。私たちは困難が起きていることを隠し、個人で解決を見いだそうとする傾向があります。しかし、危機crisisという言葉はギリシャ語で「判断する」、「識別する」、「評価する」を意味するkrinoに由来します。そこから、問いかけ、考え直すための機会が連想されます。なぜなら危機は、家庭の営みのサイクルに自然に生じるものとして、人間論的な、人類の進化における体験と見なされているからです。どの家庭も、さまざまな段階をたどります。それぞれの段階に、絶えず互いの関係を築き直さなければならない成長のための固有の課題があります。

「どんな危機も、よい知らせを秘めています。それを聞くには、心の耳を澄まして聴くことを知らねばなりません。」（使徒的勧告『愛のよろこびAmoris Laetitia』232）

家庭の危機に、司牧の観点から対応する必要があります：

- **メンタリティーの転換を目指し**、危機を自然な歩みとして考えます。アインシュタインは危機を、進歩、創造性、革新へとつながる恵みと定義しています。なぜなら、危機の時にこそ、皆の中にある最良のものが立ち現れ、人は自らの限界を乗り越えるからです。
- **危機には、「つま先立ちで」そっと近づく**。優しさ、理解する心、敬意をもって。
- **心で聴く**。共感、同情心を養う。耳を傾けることは、すぐに答えを出すことを目指すべきではなく、相手の痛みの中に入り、そこから一緒に出られるまで、とどまることです。
- **相手が自分の弱さを受け入れることができるよう、共に歩む**。過去を受け入れる。
- **相手をゆるし、自分をゆるすことの学び**。優しさ、ゆるしは、自分自身と他者を大切にすることだからです。
- （成長の）**旅路の霊性を勧めます**。完璧さの霊性よりも。
- **家庭を**司牧における**積極的な主体として認める**。自らの養成に協力し、時間や労力をかける主体として。
- **すべての家庭を温かく迎える**。特に弱さを抱えた家庭を迎え、傷が癒されるよう助けます。
- 家庭という場における**霊的次元を回復させる**。
- 家庭、夫婦、若者のための**養成の集いを促進する**。
- **専門家**やふさわしい力量のある信徒・協働者と**協力し**、人間の絆や家庭について話し合う。

まとめると、危機にある家庭と共に歩むには、共感して耳を傾けることができ、理解し、支え、危機を前向きに捉える視点を勧めることのできる人々が求められます。家庭に同伴する人は、成長、ゆるし、和解を促進し、道のりにおいて家庭を支え、家庭の積極的役割を認め、その多様性を迎える人でなければなりません。

心理療法士、家庭カウンセラー
青少年司牧部門メンバー　アントネッラ・シナゴーガ

振り返りと分かち合いのために

- **家庭の危機において、自分をゆるすことを含め、ゆるしを学ぶことは、なぜ大切なのだろうか？**
- **共同体の中で、「危機」一般へのより前向きな見方を促進するために、私は何ができるだろうか？**